

基本計画シート

課題 NO	重点課題-2	課題名	安定供給できるユズ産地の維持・発展
対象	高知市土佐山柚子生産組合	実施期間	令和2～5年

対象の概要と問題点及びあるべき姿

対象の概要・問題点

高知市土佐山柚子生産組合は、栽培技術の向上や優良系統選抜などに生産組合が一丸となって取り組み、大手取引先への酢玉販売が約95%の産地である。令和元年産で生産者196戸、栽培面積60ha、酢玉出荷量が965t、販売額が1億6千万円(H30)を超えている。

しかし、30年生を超える高樹齢樹が25%以上あり、隔年結果が目立ち、幹腐病、黒点病が多発している。

労働力低下に応じた省力化栽培のため、H31に高知市ゆずスマート農業検討協議会を発足し、ドローンによる防除試験などを実施し、スマート農業の導入について検証し始めた。

生産者の年齢割合は60歳以上が72%と高齢化が進み、労働力、担い手の不足が顕著になっている。生産者の大半は兼業農家で、平均栽培面積が約30a、酢玉販売単価は青果の約1/3、さらに酢玉A品が9%と低く、ユズだけでは収益があがらず農業経営が不安定である。これらの理由で、管理不良園が増加している。



目標年次の姿(目指すべき姿)

- ・大口取引先とのパートナーシップを堅持するため、安定的に原材料を供給出来る産地となる。
- ・スマート農業技術導入による省力化栽培で安定生産を行う。
- ・生産基盤の維持のため、産地ビジョンの改訂、担い手の確保・育成、短棘系優良系統導入による新植・改植を行う。

普及事項	取り組み期間と到達目標					
	評価項目	実施前	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
1 安定生産 1) 基本技術の徹底	酢玉出荷量	865t (H27～30年 平均)	900t	900t	900t	900t
2) スマート農業の推進	導入面積 (ドローン、アシストスーツ等)	70a	100a	100a	130a	160a
2 生産基盤の維持 1) 産地ビジョンの見直し	産地ビジョン	既存ビジョン (H28 作成)	改訂案 作成	実践	実践	実践
2) 担い手の確保・育成	新たな担い手確保対策	産地提案書による就農相談実施	担い手確保委員会の設置	試行	実行	
3) 新植・改植の推進	配布苗本数	2,300本 (平均)	2,300本	2,300本	2,300本	2,300本

ポンチ絵シート

課題名	安定供給できるユズ産地の維持・発展
対象	高知市土佐山柚子生産組合
関連事業名	普及指導活動推進事業、(次世代につなぐ営農体系の確立支援事業)、人・農地プラン推進事業、新規就農総合対策事業、果樹経営支援対策事業、農地耕作条件改善事業

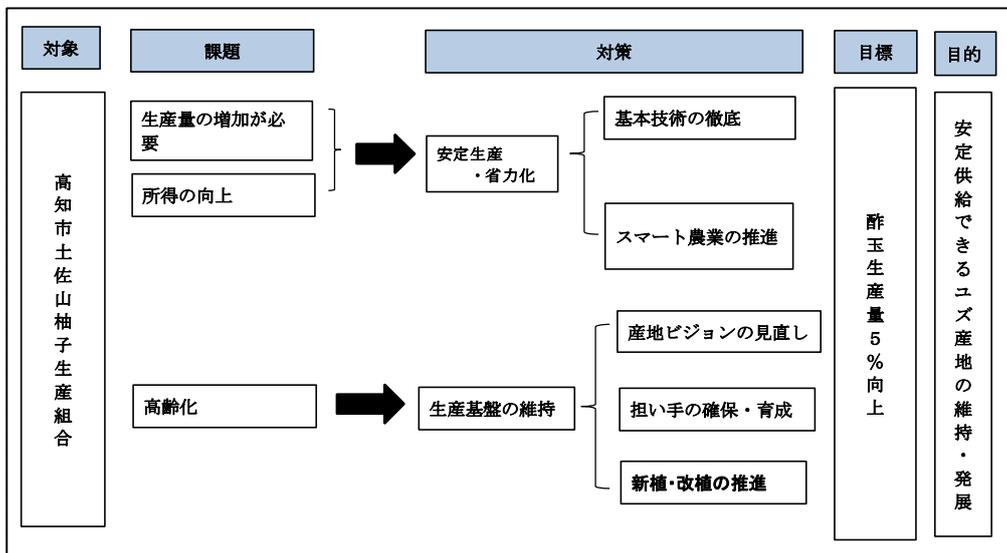
連携する関係機関との役割

●推進方向の検討と役割

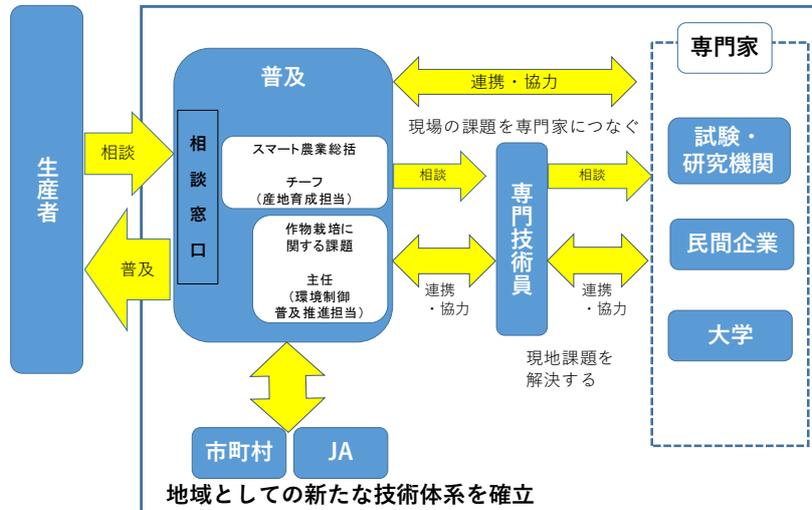
J A高知市、高知市土佐山地域振興課、(財) 夢産地とさやま開発公社、高知市ゆずスマート農業検討協議会、高知県青果物基金協会

●生産技術・担い手・経営関係課題

J A高知市、高知市土佐山地域振興課、J A高知県営農販売事業本部、環境農業推進課、イノベーション推進課、農地担い手支援課、農業担い手育成センター、農業技術センター果樹試験場、病害虫防除所



スマート農業に関する農業者等からの相談体制



年度シートその1

課題NO	重点課題-2	課題名	安定供給できるユズ産地の維持・発展		
対象	高知市土佐山柚子生産組合	チーム員	○山西、小西、森永、小笠原		
<p>〈これまでの進捗状況〉</p> <p>1 安定生産 隔年結果解消のために、整枝・せん定能力の向上に取り組み生産量の安定化に取り組んだ。また、落等要因の解消に向けて病虫害防除を推進し、果実品質向上に取り組んだ。R 元年に青果出荷拡大を目的に高能力選果機を導入した他、比較的単価の高い酢玉 A を増加させるため、ドローン防除等のスマート農業導入に向けた取り組みを始めた。</p> <p>2 生産基盤の維持 H29 年 3 月に「高知市ユズ産地構造改革計画」を策定したが、次のビジョン策定期間が近づいている。担い手対策として産地提案書の整備や指導農業士 3 名が認定され、H31 年度には後継者 2 名も育成・確保できた。果樹経営支援対策事業等を活用した新植・改植をすすめ、短棘系等優良系統導入による栽培面積は増加している。</p> <p>〈対象の概要〉 高知市土佐山地区でのユズの生産量(酢玉用)は令和元年産で 965 t である。(生産者 196 戸、栽培面積 60ha)</p> <p>〈現状の課題と問題点〉 隔年結果が激しく、高齢化により管理不良園が増えて来ており、黒点病等による品質の低下も著しい。このため、事業を活用した新植・改植をすすめるとともに、高齢化による労力不足軽減に向けた、省力的な防除技術などが求められている。</p> <p>産地ビジョンの見直しに合わせて、ユズを含めた中山間地域の担い手確保・対策を検討する場を設ける必要がある。また、事業等を活用した基盤整備も急務である。</p> <p>〈目指すべき姿と推進方向〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大口取引先とのパートナーシップを堅持するため、安定的に原材料を供給出来る産地となる。 →病虫害防除、せん定など基本技術の徹底。 ・スマート農業技術導入による省力化栽培で高品質生産を行う →ドローン、アシストスーツ等を活用した省力化技術の確立。 ・生産基盤の維持のため、産地ビジョンの改訂、担い手の確保・育成、短棘系優良系統導入による新植・改植。 →産地ビジョン改訂による指針の決定、担い手確保委員会を設置し、担い手対策の策定・実行による担い手の確保・育成、2 系統の短棘系ユズの導入。 					
普及事項	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	
1 安定生産					
1) 基本技術の徹底	← 基本技術の指導 →				
2) スマート農業の推進	← 導入に向けた体制等の検討・協議 →				
2 生産基盤の維持					
1) 産地ビジョンの見直し	改訂案作成	改訂	実践		
2) 担い手の確保・育成	担い手確保委員会の設置	担い手対策の試行	担い手対策の実行		
3) 新植・改植の推進	← 短棘系等優良系統導入 →				

年度シートその2

普及事項	1 安定生産 1) 基本技術の徹底	評価指標	現状	目標	2) スマート農業の推進	評価指標	現状	目標
		酢玉出荷量	865t (過去4ヶ年)	900t		導入面積	70 a	100a
担当	山西				山西、森永			
時期	計画				計画			
第1 四半期	4 6 月	<ul style="list-style-type: none"> 生育状況の把握と作柄予測(巡回調査 4~6月) 黒点病等の防除対策の周知(総会、技術情報誌の作成と配布、個別巡回 4~6月) 青果出荷の呼びかけ、防除指導(総会、技術情報誌、個別巡回 4~6月) 			<ul style="list-style-type: none"> スマート農業導入に向けた実証計画の検討(協議会、役員会、チーム会、実証ほ、4~6月) 			
第2 四半期	7 9 月	<ul style="list-style-type: none"> 生育状況の把握と作柄予測(巡回調査 7~9月) 黒点病等の病虫害防除対策の周知(中央研修会 7月、技術情報誌の作成と配布、個別巡回 7~9月) 青果出荷希望者の生育状況の把握(個別 7~9月) 			<ul style="list-style-type: none"> ドローンによる黒点病防除の実証試験(実証ほ、個別巡回 7~9月) スマート農業先進地視察(部会 7~9月) アシストスーツの実演(研修会 9月) 			
第3 四半期	10 12 月	<ul style="list-style-type: none"> 生育調査と収量予測(定点調査 10~12月) 青果出荷実績の把握(12月) 技術情報誌の作成と配布(10~12月) 			<ul style="list-style-type: none"> ドローンによる黒点病防除の実証試験の調査(実証ほ 11~12月) アシストスーツの活用による収穫実証(個別 10~12月) スマート農業導入方法及び体制整備等の検討(協議会、役員会 10~12月) 			
第4 四半期	1 3 月	<ul style="list-style-type: none"> せん定技術指導(講習会 1~2月、技術情報誌の作成と配布 1~3月) 青果出荷希望者の栽培指導(個別巡回 1~3月) 			<ul style="list-style-type: none"> ドローン実証試験およびアシストスーツ労力軽減の成績とりまとめ(部会、役員会、チーム会 1~3月) スマート農業導入方法及び体制整備等の検討(協議会、役員会 1~3月) 			

普及事項	2 生産基盤の維持	評価指標	現状	目標	2) 担い手の確保・育成	評価指標	現状	目標
	1) 産地ビジョンの見直し	産地ビジョン	既存 (H28 作成)	案作成		担い手確保委員会の設置	無し	設置
担当	小西、山西、小笠原、森永				小西、小笠原			
時期	計画				計画			
第1四半期	4 6月	<ul style="list-style-type: none"> 産地ビジョンの見直しスケジュール、方法検討(役員会、チーム会 4~6月) 農家生産意向の把握(説明会 6月、アンケート配布6月) 			<ul style="list-style-type: none"> 担い手確保に向けた年間活動計画協議(関係機関での検討会 4~6月) 新規就農者への支援(個別面談等 4~6月) 			
第2四半期	7 9月	<ul style="list-style-type: none"> 農家生産意向の収集と分析(アンケート収集・分析 7~9月) 			<ul style="list-style-type: none"> 担い手確保に向けた課題の整理(関係機関での検討会 7~9月) 新規就農者への支援(個別面談等 7~9月) 募集活動(県内就農相談会 8月) 募集活動の結果分析と報告(チーム会、役員会等 9月) 			
第3四半期	10 12月	<ul style="list-style-type: none"> 産地ビジョン(素案)作成、検討(チーム会 10~12月) 			<ul style="list-style-type: none"> 担い手確保に向けた課題の解決方法の整理及び委員会設置に向けた準備(関係機関での検討会 10~12月) 新規就農者への支援(個別面談等 10~12月) 			
第4四半期	1 3月	<ul style="list-style-type: none"> 産地ビジョン(案)作成、検討(役員会、チーム会 1~3月) 			<ul style="list-style-type: none"> 担い手確保委員会(基幹作物生産者代表、関係機関で構成)の設置と課題等の検討(委員会 1~3月) 新規就農予定者への支援(個別面談等 1~3月) 次年度担い手募集について検討(役員会、チーム会 1~2月) 			

普及事項	3)新植・改植の推進	評価指標	現状	目標	
		配布苗本数	2,300本/年	2,300本/年	
担当	山西、小西、森永、小笠原				
時期	計画				
第1 四半期	4 6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・新植・改植の誘導、事業申請説明(役員会 部会、4~6月) ・基盤整備の勉強会(役員会、総会 4~6月) ・新植園の栽培管理指導(個別 4~6月) ・短棘系ユズの品質特性などの情報提供(総会、技術情報誌、個別巡回 4~6月) ・再生試験園の生育調査(チーム会 4~6月) 			
第2 四半期	7 9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・新植・改植の誘導、事業申請書作成支援(部会 7~9月) ・基盤整備事業などの紹介(中央研修会 7月) ・新植園の栽培管理指導(個別巡回 7~9月) 			
第3 四半期	10 12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・新植・改植の誘導、事業申請支援(個別巡回 10~12月) 			
第4 四半期	1 3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・新植・改植の管理指導、事業申請支援(個別巡回 1~3月) ・苗定植技術指導(講習会 3月) 			